

な技術である。「やってみせ、やらせてみせて、ほめて、なおす」という農園芸技術の伝達方法は、年齢、疾患、障がいを超えて、いろいろな対象者に農園芸が受け入れやすいものであり、園芸療法の基本的な支援方法の一つでもある。

2) アーバングリーンラボ(株式会社 竹中庭園緑化) 緑の出張イベント



図9 芝生マットによる室内ピクニック

う立地条件もあり、日常はそこまで多くの利用者はいない。このイベントは、ランドスケープの視点から、水に囲われているという立地条件を逆に生かし、「水都大阪」という新たな街の魅力を引き出している。参加した団体(イベント)は、80を超えており、地域の人々を巻き込みながら、新たな魅力ある空間を創り出している。



図11 中之島公園 開催状況



図10 芝生ベンチ

規格化した芝生を利用し、室内に緑の空間を作り出すことが可能である。このような緑の出張イベントは、屋外にて活動することが困難な人には、久しぶりの緑の感触であり、感性を刺激するものである。膝の悪い人にとって、芝生ベンチは膝を地面につかずに腰を下ろすことができ、疾患や障がいがあっても手軽に緑に触れられる、意義のある空間である。

3) 水都大阪フェス 2012 公園を利用した地域の活性

大阪中之島公園にて開催された、水都大阪フェス 2012。普段から整備されているが、中洲とい



図12 音楽イベント 実施状況



図13 川沿いでのボードゲームのレンタル



図 14 水上モニュメント

このように土地の魅力を引き出し、人が集い、繋がりが生まれる空間を創り出すこともランドスケープの役割である。この点は、園芸療法を行う場作りにおいて多いに貢献できる要素である。この考えを園芸療法の庭などにも応用したら、認知機能が低下した人、意欲が低下した人などにとっても興味を引く場所となると思われる。

